

らららん5号



2019. 6. 10

ウッド・デッキの手すり改装

栗の木公園に面したウッド・デッキは、ささくれているという声を聞きました。確かにガサガサになっています。木製の手すりなので、いい解決方法を野田学園技術家庭科の天川先生に相談してみました。

「わかりました。部活の子どもたちに相談してみます」という返事をもらいました。そして、中学生を中心に構成している「インフォメーションデザイン部」の生徒さんが、手すり問題の解決に協力してくれることになりました。手すりに紙やすりをかけ、トゲをとってくれました。人数が多かった



ので短時間でできました。皆さんがよく頑張ってくれました。気持ちよく活動してくれて、嬉しかったです。

この「インフォメーションデザイン部」は、ものづくりに関することを何でもやる部活動で、木工、プログラミング、動画制作など普段からやっています。中学生は、中学ロボコンに出場すると聞きました。また、高校生は、ものづくり関係のコンテストに出場したそうです。ものづくり教室などの地域貢献事業にも積極的に取り組んでいると聞きました。

また、昨年度この部に所属していた大野玄道さんが、京都大学総合人間学部へ今春入学されたそうです。みんな頑張っているんだと思いました。

「インフォメーションデザイン部」の皆さん、本当に有り難うございました。皆さんの取り組む姿を見て、とても爽やかな気持ちになりました。

内科健診の気づき

5/27(月)と5/28(火)に内科健診が行われました。園医の田原先生にお子さんの健康の様子をよく診ていただきました。先生からアドバイスを受けられた方は、対応をよろしくお願ひします。ご自分の判断だけで済ませないで、小児科や皮膚科、整形外科などへの受診をお願いします。健診では、幾つか気になることがありました。

一つ目は皮膚についてです。乾燥肌であると診断されたお子さんが多くいました。乾燥肌をそのままにしておくと、とびひまで発展するケースもあります。また、赤い湿疹があるケースも気になりました。これには軟膏を処置することになりますが、十分でないこともよくあるそうです。塗る回数を一日一回ではなく、三回(朝・園から帰って・夜)に増やすことも大切だと話されました。皮膚のことは、お子さんにはとても気になることだと思

います。皮膚が気になって、活動に集中できないことも起こりますので、ぜひ早めに掛かりつけの小児科を受診して治すようにお願いします。

二つ目は「いびきをかきやすいか？」と話が出ました。お子さんが、アレルギー性鼻炎などで鼻のとおりがよくないと、いびきをかくようになるそうです。いびきの原因に対してきちんとした解決法を講じることはとても大切だと思いました。

三つ目は便秘気味のお子さんです。2～3年前と比べると声をかけられた人はかなり少なくなりました。しかし、食生活などを考え直す必要があると思いました。田原先生は、白米だけでなく五穀米のスティック混ぜることや玄米食を進められました。お子さんの食生活を振り返ると、食べ物の偏りが見られたり、早食いをしていたり、食生活全般を見直すことが必要でしょう。

また、健診が終わって田原先生が次のように話されました。5歳児の皆さんは、感染予防のために定期接種のMR(麻疹・風疹混合)を受けることができる時期です。定期接種は無料で受けることができますので、該当の時期に必ず済ませるようにしてください。予防接種は自分だけの問題でなく、接種を受けないで罹患すれば、家庭や地域に流行を引き起こす可能性があります。今年は、麻疹も風疹も流行しているそうです。例年の倍の罹患人数になっています。「まだ、いいだろう」がタイミングを逸するので、早めのワクチン接種をよろしくお願いします。(※麻疹……はしか ※風疹……ふうしん)

内科健診では、保護者の皆さんには忙しい時間ではなかったかと思いますが、ご協力有り難うございました。お子さんにいつも接していると、小さな兆候がなかなか分かりにくいのではないのでしょうか。今回の健診でご指導があったことは、専門医に診ていただくなど早めの対応を強くお勧めします。

双葉会の講演会

山口市内の幼稚園では、双葉会という組織があります。双葉会は、私立と国立、公立の幼稚園と一緒に研修会や催しを協力して計画します。このように力を合わせて活動している地域はめずらしいそうです。先日、双葉会の総会がありました。その後、講演会で、『こども明日花プロジェクトの居場所マネージャーの宮原久美子さん』のお話を聴くことができました。

宮原さんは、CAP(子どもへの暴力防止のための予防教育プログラム)に取り組みされてきました。いじめ、誘拐、虐待、性暴力といった様々な暴力から子どもの心とからだを守るワークショップに取り組みされてきました。「子どもたちには「いや!」と言ってもいいよ」とか「知らない人に手を捕まれたら、走って逃げることも大切だよ」、「困ったら、大人に話すことも必要だよ」など、子ども自身が判断し、自分を守れるようにかかわっていくというものでした。

宮原さんの取り組みは、そのときのニーズにあった方向へ改善が図られていきました。18年前にある事件をきっかけに、子どもの居場所づくりに取り組みはじめました。健全な環境を阻害している状況がだんだん増えていることに危機感を感じたからです。そこを何とか改善したいという思いで[子ども明日花project]を立ち上げたのでした。

子どもたちが安心して過ごせる「居場所と学びの場」を提供することと、身近な大人が子どもたちを見守り支える「地域」をつくるのが、活動の大きな柱です。どんな環境に生まれて育っても、子どもが希望を持てる社会を作りたいという気持ちがよくわかりました。